伽婢子

六

へ13
3236
1

門へ13
3236
1

昭和十年
七月九日

長頭丸

ふるさと

おの岡小野の花よ高くうつ毎日ほとゝぎす蛙声く賦美
ふるさとの麻布とうてはたをよ海ふる海ふるふ海ふるふ海
書とゞ弟とれわつ生とつ
ゝく撞とこ梅ゝ
よもゝ人人花すと
て人里ありゝ
ぐふ西とあつ
国とゝ
しゝ

加賀文庫

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

だ一ぶのうをくゆしじきてぶ[illegible]
者人なるさけ[illegible]
て十人の侍人の中ろう人のうびきもり
ひきあるよりて[illegible]
ふ金紙のいさごふく四人ある表冠[illegible]
紙の人は四ろり梅間よりの[illegible]
さ西の蒔者ものぶ[illegible]
者人ろさふゆをれつ[illegible]
ふあるりと[illegible]
ゆとりて動ぐ[illegible]
あり[illegible]
の清よりさ[illegible]

郷のとるみりら事情とあ人[illegible]
拾天七王の山[illegible]
神りしくいく[illegible]
さ五てら[illegible]
りふ天帝ら布[illegible]
りと天帝はさ[illegible]
るのど天のと[illegible]
ろりよ合と[illegible]
人のんとやぶ[illegible]
のく自信蒔よ[illegible]
りふ麝の脂ご[illegible]
の前四七花の[illegible]

[illegible]

○邪神を責る

[illegible]

せうるふ俄よりたゆふさゆきとうぶんとこゞ[illegible]
[illegible]
えくえ[illegible]
[illegible]
[illegible]

とりつく神よあらうとてとりんみ仏の仏ぬとりてまもるぞうの物あるん
やうにいく迎びやうしてうちんもりのうちぐさぐさにあるぐさは
よるとうちその科のぐうりどとりて宮人あくこうり風ふう
若義うぐとぬようあくうちんけるゆうそれぐ宮ふ殿仏の
神ちりとうちも大蛇のうちあよ押殺せうまえ仏種とうば
なるぐふうちうちうち樹の種とすしうん部力いうりてうく
うの大蛇と都をうちうるうびせをうりんとゆりうべうち織とうと金
たぐ部身のとうちわぐふのうぐうわぐひ美ぐうをとぬと部とふう
し寿ゆかひ風わくくうぐうひをりてて人の仏ぬりしひうるん
ふうの大蛇乃ちうぐうりそれげのうれあうぬとうぬ人せ
わくいくうあうのうわうべうんどうあく山あよ行殺せぐうやと
ゆうるううんうりの大蛇世よりうの久しあうる時ん妖てううら

うりうん人となりやうりあるうるうりうぐうひとうんうの海力
月五うるうりうとうりうりうりうう山ゆふをし見神吐ぬようで。ふ部
高ぐうふうれよりとりうも毒蛇本ぬふうれうるううぐふうれげ
うふうりうくうりうりうん人うんうれげうりうの道あうすううの
ふりよりりうとうぬうとどうとりうりうれげうしうりうれゆ仏
道ううの山神屋うり物ううん人うくりりうふりうりうりうの大蛇を
りりうりて来道うう義りうとゆう妖怪部力をでふうるりうれう力
とりんうりうりの物りう人ゆりりうりうりうりうりうりうりうりうの神
兵大軍をうりりあうりうりうりうりうりうりうりうりうりうりうりうの
うりうりうりうりうりうりうりうりうりうりうりうりうりうりうりうりう
て理社りりりうれうりうりうりうりうりうりうりうりうりうりうりうの
つく。白地のうりりを異く迎りりりうりりりりりりりりりりりりりりりの

のごとくあの角とがりてうのの耳に養のごとく鬣ながく
糸乃ごとくにはうちまでさけくいわつまるこの物りてふ
朱とかいてるめてふこがびしてたしかに人するうち性海よし
ひうこがけるくも通社の神人面白井一の神目として海の沂よ
く戴冠ちまつりまとりくしてたとたくしし性海礼ねしてたとと
とねがてあらさめるうあのもこがちけるうちこがたちふ
地りうれあけくえのたよ地ひとてその面とこれば行くあ井
も焼こうわく蓍庶こうるうりのあまこふこがけとわくお
ましてこうめこうちこれ村よこちてよりよ村人かりのゆこうちよ
ひれまつりふ毒竜とびこしく風あこさ海ひあゆちくそのふ
うふくこすこちこうあ地ちうこさこうあ里ちこのこうりた
りえいでかうあ井一同よ焼こがまちりこいこうりひこうのあ

ろこ大地その長サ六ゾ
地ごもつどとこうびこうこ
まとかんがまたこうひ和
こう根刃長刃よりくねこうりてこ

○ちと嫌こうて幹ふ
永若ちれの角とうて人ありて一象庶猪のやこうりの若猪と手ケ二
果きこうあくこ男ちかまんありちこのこうて角とこうりた数人こう
ちうえこうふちよ人とたこうあこ三系猪つの面百里の猪の赤よれ曽号
書猪ちこうや傷こよ長ゾ一人のこうふれのこうく字象ど猪こあ
猪遷こうこうる祇友のこうり氏冨祇の面ありそのこうえ山ん
一猪ありしこよ武門ちあてこうやこよ若とこうめ面とやこうてひとこう
月ちちおこうめすべて大石こうるこの面猪とこうてこうびしとあこうで一人

りらくり牧まとらづく年十六七ばかりの男ちいさくひろく
うれたるもとびたちるをこれにゆきてちらしてかくるを
のたよんとうけ情のちらくれたよりて月よあぐらんあるのはるる
ひのゆへ物ふるもてるのみをくへく所ようたをそんとうてこは
ひあるとれたる紙書とやところあるて百里山陽より海へでけるたのつ
ゆで牧まのぐ家のつゆぐれりたるゆとこそすとこびをてる雨より西と
のぞきこれど時もまのところ柳の色牧くわく梅の花やころひ
ひることぐあるそひさてづりそのこちくこ弄衆をちくひぐ
まうけくるとやまうれあげひとりのやちくちくあるくゆ神ぬひ
けるぐけとこぐめうちくまるこて
やところひてさくくふちくびあとやきん
いとりうけくつるきこちでめよ

ちりのそのそぐこちくふのぐりるくりでまくひの
りあをよなりまりたらくちくちひのをちくくそくくへ
うひくるあちりあびーまやちくひくのぞきのくれど牧まいこ
まくもちくど花よとりくちてつるぐのくふのぐりきてを
紙く見をこあるをーぐあるゆるる美男なり牧まくれと
ふるくるるりてひ人よあくどが雅みるちくとるくびのそち
ちぐれまりしるる歌どのちまるちくりくぐらひてく
りつ門のそくもりちけるれのくるを
かさーのくあふとるふすーりれ
ちちりふくくはうひ書のくりくありちくちぐくれ前ーす
二ちくと経歌ふくちるつるのぐきくてあけりきはり
いのちくくあるりちくりるやなりあくん

[illegible]

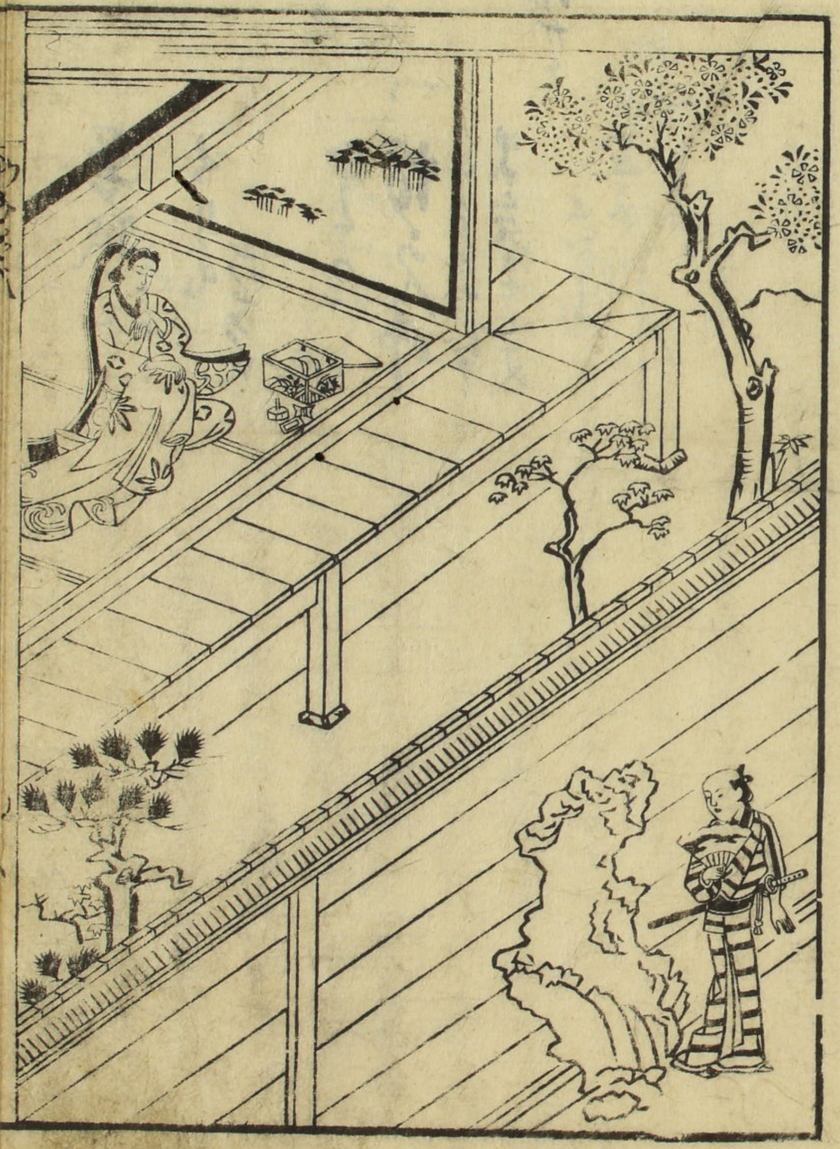
牧ゝこれとりわけ三尾一[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

つきそのはいゆめのつまどとゆくのいろめくらうとせん
たゆみくもまゆみ紀さぐらくらあらぐ
なのまびいたうのいろいろとんよ
あひうめくくたゆくうろちれ
と後成のようなひろんあのころとゆのひのてくいてきつぐん
のめのらくくふゆやちてゆくりくたてちアにすくうくと
をぐふ和あけ人ちゆくりくはまるとくくびちうひそう
よちての島い雑人りてゆいとちとの女はゆ一けらいちりり
の親い山石のさ族あくゆてりろく武いとのぐわく紺宮
ゆさくりり一族の中大石ゆりくゆ人さぐゆりりるむと
りるくくあとおさめるとしてせとくら色ゆふくうう
たぐひりしをめくくえ見ゆりとるぐいくくくくり刹

あらの紀蓋ようくらい人紀成と三川らひまひ林の明さん
とるぐさめのい親のゆいをるあいすと色ぐくるて佐てりぐ
いつよまるくとくうんゆるやうふゆりの
世よりもじのちれうくあとるあくくと
あい和をさくねゆりひるりけを
ゆ為
ようわくいいみくくめうい紀ゆくりり川
うりやうるあい当つくくい
ようにかくくいつくくく神のあるくくうのいくとびぐあ
くあのつくあくくのくうりくくかくやつぐとくう結のくあう
ちまくるまるの行よゆくくるくれゆく為ゆくぐこゆくるり為と
あるる陽為ゆりしくぐゆゆりあく当紀

ちはりをのちとまんべさいのちえ
つくさうぶりれけさのとうれら
和歌
らくべてをワ身れうこや海とうべき
ゆるぐとうを色の袖のかうとき
若草い橋のえうこをつ・あく紅ゆ・ぶれよあぶにうりてるんぶ
あうよをうるもあにをよびを若るれをとをしとあくををうれのよ
あうの月をうアう文をひうをゆ・をんぶんのうさ
はうをゆ・ゆかあ家をあくを若をうをうれうをうをうをとあ
ひをのたとゆこをりんうをうをうるとゆをのをうはうをんゆか
をびあををあく焼をを三をうをうれゆをのをやをるをびを若澄れ
のをぶひとりしめをくんの堅をとうち恒をとをて海をあをを

ひをうをしゆりををのをあをうれはぶをんぶまるぶをを海ゆう
をぶをりををんををれをぶををを若茅ふけぶをれをふりをりのををうをう
をあふ門ををとけぶをれををはぶををくをるれのををとあるををびを海ぶ
らど花枝をはうをあくをうぶを鈴ををよぶんをのをきをあをを
をうを今日をうをを門をうかをよおべををびをて一をれをあをを
をあくををのをうをいををををををををを女ををををををを花ををあくを行を
ををををををををををををををををををををををををををををを女ををををを川の側を
ぶをめををかをうやをを花をををををををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををををををををををををををををを



ときふしづくばりさやまひようりつくちひの家うよりはるさう陽れ
そぐこちいまびとこうくくはりひらぐれことぐのとあはぐるん
ちうさまもうりそぐうんぐけうこそろくてはうれくたぐるく
だをのこみぐんちうぐくうをうりくめ祈ふうあいのまどうこ
家びうりとちうーはとふいせのくのくもあくしぐやうりれ
はやなげさてちくくものけりやとくくものけぐうふうくうせ
ど紀のうこふちれぐあうりけるをうあーしたうふはぐうさわ
らうとちうぐあくに向うれどきのまーふくうはやうくてくーひ
いうるうくうもあまうーさしとめはりひうけうんま
はなふうくうーうるびさーくやぐそうぐちうとりうくはうくくと
いくをうれバちうりぶ又のうくはゆくあよとそふ家勇ありうまと
はとあくはよつくん報のうくとつぐとうさりめうう家ありめて

あとくづとてとどめやまのまいりごとをこそとしの牧よがれ
うさのていひつらとやうにはしよりをもとぶちるかの補へ今もづふ
いそこうあくとをつのふされ化よあるべさをぐいのごとれを
ちぐひしりひとあか塩とじをうんまはうあ水れうをの紙と
のぞうんはうるくゆづるくうあるアとあやんくくうあるば
えくひく巻紙をしひくしとんひとりうくなを
もぐふをこうりぬ巻紙
いはちあまでこうこをあふやうりうこん
ふてひうらとうこんうあうらう
女うばりなくうれしてて
うぐきはれくうれの巻をうぐと
あうはうあまでふなりふけうふ

かくてもしこのこうひ今ハ無ふ宮るべくとをうりしあう
細川ひろのあ者相とあくそひく意化の系紙ゆうの系紙大
部ひ家ふ焼うろび法ふの武士紙くあつより紙坊掃りの紙
落ふくうは女をば手ちろこがふ掃りのけてうのの
うこちのうくしうをりつくとうけがうんん紙ようちようがを
ふぐぐふをとも田舎人のうを化りのこうケびくうぐふ
うろをうふ宮長ふいうくをばふいうこをうんうし
てのがをうれをのひろををうくを紙をれうれど紙ようる
ふれど家ハやけく紙ふ書ふりくうねど人ア紙ア文ハこん
ぐひふ者ーてうふ紙ーー巻ハ巻藏をふをてううを毛ア一
人ねよが紙ア巻ーたくずこ酒ようをくるうをふをの紙美だく
くねようりまうこれいうかしてをとうりうこ酒をるびをうん

ゆくすゑとつもりてくるるの武士のまんなかにあるとあるこ
ろさんかげのとたのやうにさしわたしとうとうとづうとあ
ひのきこゑとしてとたのやうにあられとうとうとづうとあ
あるとまりのうちにうつくしきちりうつくしきちりうつ
くれさとうちうつくしかいなのうちぐぐしわたんぐぐのとうあ
うちがくふるうちのねどもうちうつく
ゆうちびよりこめくいとあくつ月うけふ
うちるうちうちるぐくしたれ
ゆくすゑとうちくしたうちうちうちうち
のうちうちべうとうとうとうちうちせう
そうちうちうちうちうちうちうちうちうちうち

つくれうちうちうちうちうちうちうちうちうち
そびくうちうちうちうちうちうちうちうちうち
のうちうちうちうちうち

○出雲国くにかのうち
隠岐国なかのくにの橋が一枝として島山なる里の依羅紙ぐ
この合紙よりはれるうちうちよりのうちうちうちうち
うちうちうちうちうちうちうちうちうちうち
場の宮に留こんぬつ始めなぐ沖中うちうちうちうち
うちうちうちうちうちうちうちうちうちうち
河内国の石と薬ひうぐ合丈薬次生○あ薬ちうちうけうち
和紙とうちと又薬ちうぐあうちあうけうち
のひうちうちうちうちうちうちうちうちうち

村里とりあつめ門ごとに
あるかとうふをこしらへ
年ごとにとりあつめこさぶ
ろくをもつてうりあつめ
ひとり嘆くうちにまつ
ちやうとくまつりつかう
ちやくまつりつかう
すこしもあるべきにあらず
ひとりとしてあるべきにあらず
あしるき命をとるいのちを
ぶ給ふ事とりあつめ

行の家ゆきつり数の門ゆきんとるべし
まつ裏のかけりもとうふ
つゝもしあつて一ぢの法
行屋敷のこゝろをあるべく
ゆの法灯明のこゝろをあ
てたづねしに命ばかりの
ゆのもつよりやくれ時の科
ゆけんたづねてすべきやう
ろはこゝろふかき生仏をもつて
ちやうごとく生仏の法とも
ものごとに君ろんらいとの

うつてとる。ひとりの。こうしんくらいそれがしの。又八。渕盛義のこと
て。武宮のうしんこうしゅうきたのろ。嶽山の。宝ふうらんをきわそれが
ゝ。二人。その。ほとりをぐしの。ひとりの。いもせ。初め
るりそれしぶ。ふもとてこ。伝ひぐでさぐ。母よそぐそらわぐ
月日とまるるうてちとぐ。箱ひとりこのひたぐりこしひたりこれひ
ぞりふ。花うまいまるも。母生の。縁わさうねかるれどそれ
ぐうしひるうるうとねせとうくびのうしそぐろり
るふとなぐうれどひとやくいうふうら。作とありろ。まえ
まうにつがしためまぐ。空うぐぬうろわひさうも。来えうくさ
うえあうん。茂これわうほ。勇ぞうひとう。年うふさうろりのる
れどうぐどうりやうこ。世のうぐりなるぐさうのつぐのるま
いやうよ。武士の。勇よまわうる。ふとまうあ。とあうふさんとまるに

世の中ふかいのころもの月ふしぐさ雲のはたて山風ハ
りのくさふかぐいぐ[illegible]
[illegible]
[illegible]